

令和4年度 糸魚川市中学生広島派遣研修の概要

1 目的

唯一の核被爆国の国民として、被爆の恐ろしさ、苦しみを伝えるとともに、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを認識することを目的とする。

2 派遣先

広島市

3 派遣期間

令和4年8月5日（金）～7日（日） 2泊3日

4 参加生徒

No.	氏名	ふりがな	性別	学校名
1	池田 希愛	いけだ のあ	女	能生中学校
2	齋藤 碧波	さいとう あおば	女	
3	澁谷 花奈	しぶや はな	女	糸魚川東中学校
4	猪俣 陽弘	いのまた あきひろ	男	
5	渡邊 凜人	わたなべ りんと	男	糸魚川中学校
6	山崎 茉音	やまざき まお	女	
7	山本 凜太郎	やまもと りんたろう	男	
8	長内 夏依	おさない かより	女	
9	横澤 美結	よこさわ みゆ	女	
10	小泉 結生	こいずみ ゆい	女	青海中学校
11	高津 芽依	たかつ めい	女	

5 引率職員

No.	所属	職名	氏名
1	こども教育課	指導主事	植木 靖英
2	こども課	保健師	山崎 陽由
3	総務課	主事	保坂 拓也

6 実施経過

5月末	参加生徒、担当教諭の選出
7月1日(金)	担当教諭打合せ会
7月25日(月)	事前学習会
7月27日(水) ～8月3日(水)	各中学校で作製した千羽鶴を市役所本庁舎 市民ホールに展示
8月5日(金) ～7日(日)	広島現地研修
8月22日(月)	研修報告会
2学期以降	各学校での研修報告会

7 広島現地研修スケジュール

－ 1日目 － 8月5日(金)

時刻	行程
6:20	出発式(糸魚川駅自由通路)
7:05	糸魚川駅発(東京経由)
13:23	広島駅着
14:40～16:40	呉市 大和ミュージアム見学
18:20	旅館着

－ 2日目 － 8月6日(土)

時刻	行程
6:20	旅館発
7:50～8:50	平和記念式典参列
9:00～10:30	平和記念公園見学(千羽鶴献納)
10:40～11:50	平和記念資料館見学
13:30～14:30	被爆体験講話聴講 とうろう流しメッセージ作成

研修の概要

16：00～17：40	旅館着 夕食休憩
18：00～19：30	とうろう流し参加

－ 3 日目 － 8 月 7 日（日）

時刻	行程
8：00	旅館 発
9：10～10：30	広島城見学
11：57	広島駅 発（東京経由）
18：46	糸魚川駅 着
19：00	帰還式（ジオパル）

平和を守りつなぐために私たちにできること

能生中学校 2年2組 池田 希愛

私は、戦争については、メディアや教科書でしか学んだことがなく、戦争は悲惨なもので絶対にしてはいけないものという漠然とした知識しかありませんでした。そこで、実際に目で見て学び、知識を深めていきたいと思い、今回の広島派遣研修に参加しました。

8月6日に開催された平和記念式典には、各国から大勢の人々が参列していて、核兵器廃絶と世界平和を願う気持ちの大きさを感じ取ることができました。また、互いを認め受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解していくことが大切であると知りました。

原爆投下から77年経った今でも、原爆による後遺症で多くの方が苦しんでいます。体だけでなく、心にも苦しみは響いています。世界で唯一の被爆国である日本が中心となり、核兵器の恐ろしさや影響を世界へ向け発信していかなければならないと強く思いました。

私は今、とても幸せです。毎日学校へ通い、たくさんの仲間と楽しく過ごしています。家には家族がいて、食事や入浴など何不自由なく生活しています。この生活が当たり前だと思っていました。でも、私たちの日々の当たり前は当たり前ではないのです。77年前、一発の爆弾により一瞬でこのあたりの生

活は奪われたのです。生活だけでなく、何の罪もない人々の命も奪われました。今の平和は戦争で犠牲になったたくさんの命の上に築かれているということをおぼえてはなりません。今の暮らしがあるのは先代の方々のおかげであり、今を生きる私たちには、その平和を守る義務があります。そして守り、伝え、引き継いでいかなければなりません。

「平和について考え、発信してください。」と被爆体験者の方はおっしゃっています。世界全体が平和を得られるように、今の自分にできることを考えてください。私たち個人ができることは、とても小さなことかもしれませんが。しかし、1人1人の行動の積み重ねが大きな力になり、やがて大きな実を結ぶのだと思います。まずは関心を持ち、知ることから始めてみませんか？ 今年、被爆体験者数は初めて12万人を下回り、平均年齢は84歳を超えました。近い将来、被爆体験者の方々のお話を直接聞くことはできなくなってしまいます。その前にまずは広島へ行き、自分の目で見て聴いて、広島のことや原爆について学んでほしいと思います。そして、自分が学んだことを周りの人たちに伝えていくことが、世界平和への実現の第一歩ではないかと私は思います。

平和で豊かな暮らし

能生中学校 2年2組 齋藤 碧波

私は、8月5日から7日までの3日間、広島派遣研修に参加し、広島へ行きました。そこでは、戦争や原爆の恐ろしさを学びました。

1日目の大和ミュージアムでは戦艦「大和」の歴史を学習しました。大和ミュージアムには10分の1のサイズで再現された戦艦「大和」の模型がありました。特攻兵器の「回天」というものも展示してありました。「回天」とは、水中用の爆弾「魚雷」をもとにして作られた兵器で、人が中に乗り、体当たりをするという私たちには考えられない兵器です。近くには実際に兵器に乗った男性が残した家族へのメッセージがあり、聞くことができました。メッセージには「元気で征きます。」と力強い声で残されていました。

2日目は平和記念式典に参列しました。式典には多くの方が参列していて、平和を願う人がたくさんいるということを実感しました。その後に、平和記念公園を見学しました。平和記念公園には原爆の子の像や原爆ドームがありました。原爆ドームは、当時のまま残されていて、崩れている壁や落ちているがれきがあり、原子爆弾の怖さを感じました。平和記念資料館では、被爆をして負ったけがや焼け野原となった広島の写真などがありました。中には、当時、子どもが着ていた服や真っ黒に焦げた芋の弁当などがあり、原子爆弾の怖さを感じました。その後に、被爆体験講話を聞きました。原子爆弾は爆心地から2km離れた場所でも建物が焼かれ、全壊全焼区域となりました。たくさんの人々が亡くなり、今生きている方々も後遺症で苦しんでいます。1つの原子爆弾で多

くの人の命や日常を奪った状況は、私が想像していたもの以上に恐ろしいものだと分かりました。

3日目は、原爆で倒壊し、外観復元や内部改装を行い、現在は歴史資料館となっている広島城へ行きました。建物の中では昔使われていた刀や当時の部屋が再現してあるものを見ることができました。

この3日間、戦争や原爆の恐ろしさや平和で豊かな暮らしについて学びました。被爆者の平均年齢が84歳を超えている今、現地に行き、直接学んだ私たちが、より多くの人に語り継いでいかなければなりません。多くの人が犠牲になり日常が一瞬にして奪われ、地獄のような苦しみを経験した人々の思いや訴えを忘れずに、平和で豊かな暮らしを創っていきたいです。

伝えていく

糸魚川東中学校 2年1組 澁谷 花奈

私が今回、広島派遣に行き、戦争・原爆を知って印象に残ったのは、「特攻」です。特攻とは特別攻撃の略で、10代から20代の青年たちが爆弾をつけた飛行機に乗って、敵軍にぶつかるという作戦です。当然生きて帰ってくることはできません。家族や友達にも会うことはできなくなってしまいます。

私は特攻のことをテレビで少し見ただけで、詳しくは知らなかったのですが、「大和ミュージアム」へ行き、資料を見たときに「本当にこんな兵器があったのだ」と実感しました。自分たちと同じくらいの若い人たちが訓練をして、飛行機に乗って命を落としてくる。想像もできない残酷さと悲痛さを味わいました。それと同時に、よっぽど日本が緊迫していた状況だったということも知りました。

特攻だけに限らず戦争や原爆は、大切な人を一瞬で奪い、何百人、何千人の人生を変えてしまうものであり、もし生き残ったとしても、放射線などの影響でたくさんの方の後遺症を持つこととなり、人間らしく生きることも死ぬことも許さない恐ろしいものです。

そして今は、ロシアとウクライナの戦争が世界中で報道されています。ロシアは「核」を使うかもしれないと言及しており、可能性はゼロではないです。まだ使用していませんが、核を使わなくとも銃で罪のない市民が次々と殺されていきたくさんの人が悲しみを抱えて生きています。

私は、唯一の被爆国の国民として、ロシアやウクライナまで届くか分かりませんが、戦争や原爆は人から当たり前の生活を奪い、何年も何十年も苦しめ続ける、そして負の歴史として残り続けることになるということを伝えていき、世界が平和で幸せであり続けるようにしていきたいです。

広島派遣を通して伝えたいこと

糸魚川東中学校 2年1組 猪俣 陽弘

僕は広島で、戦争についてたくさんのことを学びました。

平和記念資料館では、広島に原爆が投下された8月6日の恐ろしさを資料やビデオで見せていただきました。

大和ミュージアムでは、戦艦大和を10分の1のサイズで見ることができました。アメリカ軍の爆撃にあって、大和に乗っていたほとんどの人が命を落としたそうです。この戦艦大和以外にも、貴重な実物や資料を見ることができました。これらを見て、僕は、大和に乗って戦争に行った人たちの思いを、世の中の人たちに伝えていきたいと思いました。

僕が特に印象に残ったのは、被爆体験者の講話です。波田保子さんに戦争当時のことを話していただきました。ほとんどの人が、爆心地から2km圏内に入った所で被爆しました。波田保子さんのお父さんは、被爆者特有の原爆ぶらぶら病になり、普通の生活ができなくなったそうです。

戦争を知らない人は、被爆者の気持ちになって、戦争の恐ろしさを考えていかなければいけないと思いました。

戦争を体験された人たちが高齢となり、語る事、機会が減っている今、僕は貴重な経験をさせていただきました。だから、これからは、広島派遣で学んだことを多くの人たちに伝えていきたいと思います。

僕が広島に行って学んだこと

糸魚川中学校 2年1組 渡邊 凜人

1 はじめに

僕の広島派遣研修の目当ては2つありました。1つは、戦争の悲惨さを知ること、もう1つは、他の中学校の人と交流することです。そのために見学などでは、真剣に見たり、聞いたりして、しっかり学ぶこと、3日間を通して一緒に行った仲間と良いコミュニケーションを取ることを心がけました。

このレポートでは特に心に残った研修内容をまとめ、研修を通して感じたことを伝えます。

2 大和ミュージアム

大和ミュージアムは、戦艦大和が作られた呉市にある博物館です。中には戦艦大和の10分の1のサイズの戦艦大和や、たくさんの戦争に使われたものが展示されていました。戦艦大和は10分の1スケールですが、とても大きかったです。

3 平和記念式典

平和記念式典は、8月6日の朝8:00から、広島平和記念公園で行われました。岸田首相や、国連のグテーレス事務総長などが核兵器の廃止と、戦争の根絶について語っていました。僕が特に心に残った言葉が、こども代表の「平和への誓い」です。家に帰り、式典のパンフレットでスピーチの全文を改めて読み直してみました。「本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思

いやりの心を持ち、相手を理解しようとする事です。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。」本当にその通りだと思います。

4 平和記念公園見学

平和記念式典が終わった後は、平和記念公園を見学しました。平和記念公園では、原爆ドームを見たり、ガイドさんの話を聞いたりしました。原爆ドームはとても迫力がありました。もともと左右対称の建物が原爆によって半分以下になったと知り驚きました。世界遺産として、これからも原爆の悲惨さを伝えていく遺産だと思います。

5 広島平和記念資料館見学

広島平和記念資料館は、平和記念公園の中にある資料館です。資料館の中には、被爆して亡くなった方の服や、まだ当時の中身が入った弁当箱が展示されていました。また、道端に倒れている亡くなった人の写真、山になった骸骨の写真が展示されていました。この写真をみて、無差別に人が亡くなるのはとてもひどいことだと改めて思いました。また、展示室にあったタッチパネルには、今までの全ての平和宣言、平和への誓いを見ることができました。今と昔は文章の形が少し違いましたが、伝えたいことは同じだと思いました。

6 被爆体験講話

資料館を見学した後は、波田保子さんの被爆体験講話を聞きました。疎開の生活は、ご飯が少なく、ずっと働いて、おまけにお風呂はぜんぜん入れなかったことがわかりました。

また、被爆した人は、どんどん痩せ細っていき、かなり弱ると言うことが放射

線の恐ろしさだと思いました。被爆した直後はもちろん、その後もずっと生き抜いてこられた方のお話にも、諦めずに前を向く気持ちの大切さを感じました。

7 研修をとおして学んだこと

僕が研修を通して学んだことは、戦争の恐ろしさです。実際に式典に参加したり、被爆体験のお話を聞いたりしたことで、改めて戦争は2度としてはいけないと思いました。僕が出来ることはあまりないかもしれませんが、今回の研修で学んだことを周りの人に伝え、戦争のない世の中の実現に少しでも貢献したいと思いました。原爆投下から77年、広島は、戦争の後の、人々の諦めない心でできていると思いました。僕も困難に出会っても立ち向かい、諦めない心を大切にして、これから頑張っていきます。

平和な未来をつくるために

糸魚川中学校 2年2組 山崎 茉音

私は今回の広島派遣を通して戦争、原爆の恐ろしさ、悲惨さについて学びました。その中で特に心に残っていることは3つあります。

1つ目は、呉市の大和ミュージアムです。そこには、10分の1スケールの戦艦「大和」の模型があります。私は「アルキメデスの大戦」という映画を小学校の時に見て、戦艦「大和」に興味を持ちました。実際に見て、10分の1サイズでもとても大きかったので驚きました。私は「大和」などの今でも造ることが難しそうな当時の優れた技術を平和のために活用することができていれば、たくさんの戦没者を出すこともなかったのではないかと思います。

2つ目は、平和記念資料館です。そこには被爆者の方の遺品や原爆の悲惨さを示す写真や資料がたくさん展示されています。その中で、私にとって特に印象深いものは「人影の石」です。爆心地から260メートルにあった銀行の入り口の階段が切り出され、その石には座っていた人の影がくっきりと残っていました。私には石が熱によって変色したのか、座っていた人が溶けてしまったのかは分かりません。しかし、どちらにしても亡くなった方は、物も言えないまま亡くなってしまったのだと思うと、心が痛くなりました。

3つ目は、被爆体験講話です。お話を聞かせていただいた波田保子さんは、当時9歳の時に爆心地から20km離れたところにある学童疎開先で被爆されました。波田さんのお父さんは原爆の影響で病気になり、波田さんは家庭崩壊の

中で中学校を卒業してすぐ朝から晩まで働いていたとおっしゃっていました。私ともあまり変わらない年なのに、このような生活を耐えることは想像以上にとても辛いものだと思います。

今回の平和記念式典の「平和への誓い」でこども代表の2人が言っていた「過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。今度は私たちの番です。」という言葉にとても共感しました。平和な未来を創るために、平和の尊さ、戦争、原爆の恐ろしさを知っていなければなりません。人は忘れる生き物です。原爆による悲劇を忘れないために広島に行って学んだことを家族や友人など、多くの人に伝えていきます。また、これから母から勧められた「きけ わだつみのこえ」という本を読みたいです。

最後に、大雨やコロナなどで対応が大変な中、私たちを広島派遣に連れて行って下さった市職員の方々、そして一緒に学んだ生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

原爆のおそろしさ

糸魚川中学校 2年2組 山本 凜太郎

僕は広島派遣に参加して学んだことは、核、戦争の恐ろしさです。77年前の8月6日、8時15分、広島に原爆が落とされました。そして約14万人もの命が一瞬にして奪われました。僕は、当時9歳小学校3年生で被爆をされた波田保子さんのお話を聞いてきました。

当時、波田さんは集団疎開をしていました。疎開先では、とても楽な生活とは言えず、食べるものが少なく毎日喧嘩が起きていて不健康、それにお風呂は2週間に1回で、虫がわいて暑くて辛くてとても大変だったと話していました。

そして広島に原爆が落ちた日には、地震のような大きな揺れがあり、激しく光ったそうです。波田さんは近くにあった竹やぶに避難し、もくもくと上がるキノコ雲を見ました。お母さんとお父さんが迎えに来るまでずっと待っていました。迎えに来たとき、原爆によってお父さんの姿が変わってしまっていて、すぐに近寄って行けなかったと話していました。ですが、お母さんから「死ぬ時は家族3人一緒に死にたいと、お父さんが言っていたんだよ。」と聞くと波田さんはお父さんに近づき、話をするのができたと話していました。そして家族の元に帰っても楽な生活ではなく、仕事を朝から晩までしていたそうです。

アメリカは日本を実験台にして、原爆を落とす練習を行っていました。その理由は、原爆を1つ作るのに莫大な費用がかかってしまうので、失敗は許されなかったからです。（長岡にも爆弾が落ちています。）原爆は上空600メートルで爆発しました。その理由は、地上で爆発するよりも600メートル上空で爆

発させた方が被爆範囲が広がったからだと思います。爆発した時の熱は約 1,500 度にも達し、人間の影が壁に張り付いてしまいました。その人間の影が張り付いている実物を資料館で見ました。そこでは、当時のままのお弁当箱や道路に倒れ込んでいる人の写真、たくさんの頭蓋骨の写真など胸が苦しくなってしまうものがたくさん展示されていました。

広島派遣に参加させてもらったので、これからは、この経験をみんなに伝え、戦争のない世界にして二度と核を使用せず、広島や長崎のように辛く、苦しい思いをする人を出してはならないと強く思いました。そして核の恐ろしさを実際に知ることができたので、これからは大勢の友達、先生、家族などに教えていきたいです。そして核使用の反対を訴えていかなければならないと思いました。

私が広島で感じたこと

糸魚川中学校 2年3組 長内 夏依

私たちは8月5日、6日、7日の3日間、自国で起こった悲劇と今の平和を学ぶために広島に行ってきました。私が今回、広島に行って3日間いろんなところに行き、お話を聞いたり、資料を見たりしてきた中で、特に思い出に残っていることは被爆者、両親のどちらかが被爆者の原爆後に生まれた子供の被爆者二世の方々のお話です。そのお話は、研修を通して、いろんなところでのキーワードとなっていました。その方々の話を聞く場が設けられていましたが、そこだけではなく、平和記念式典のビデオ映像、平和記念資料館などでも聞くこと、見ることができました。その方々には共通したお話がありました。それは「また同じことを繰り返してはならない。そのためにこの歴史をもっとたくさんの方に伝えていかなくてはならない。」ということでした。

日本が終戦しても世界各国では、今現在も戦争が行われています。そんなニュースを見ていると、その時の光景を思い出してしまい、とても悲しく、悔しく思うそうです。悲しく思うのは、戦争の罪の重さを理解していない人がいることで、悔しく思うのは、戦争での失われる命を思うからだそうです。肉体的に負う傷もあれば精神的に負う傷もあり、どちらの傷も生涯消えることはないということも学びました。

私たちは2日目の最後に、平和への願いを込めた灯籠流しを行いました。灯籠に願いを書いたのが、被爆者二世の波田保子さんのお話を聞いた後だったこともあり、真剣に願いを考えることができました。その未来が明るいものにな

るように明るい色を使って書き上げ、その日の6時近くに橋に行きました。少しずつ流れる量が増えていく灯籠を見ているのはとても楽しくて、灯籠はカラフルで、見ていてとっても綺麗でした。橋にはたくさんの方がその光景を見に来ていました。集まっていた人たち全員が流れる灯籠を見ながら平和を願っていたと思います。灯籠流しを見ていた時、その場にいた人たちの思いが一つになっていたと思います。

最後に今回の広島派遣、とても有意義なものになりました。企画して下さった皆さん、引率して下さった皆さん、お話を聞かせて下さった皆さん、ありがとうございました。たくさんの人を悲しませ、苦しめる戦争の恐ろしさを再確認してきました。これからの将来を担っていく身として、今の日本の平和を守っていきたい、そのために体験してきたことをできるだけ多くの人に伝えていきたい、そう考えています。

広島派遣研修に参加して

糸魚川中学校 2年4組 横澤 美結

今回8月5日から8月7日までの3日間、広島派遣研修に参加させていただき、実際の原爆ドームや平和記念資料館で当時の写真や映像を見たり、原子爆弾の被害にあった方のお話を伺いました。

私が最も心に残ったのは、波田保子さんによる被爆体験講話です。1945年8月6日の朝、広島市に投下された原子爆弾は、地上600メートルの上空で炸裂し、爆心地から2km以内にいた12万人もの方々が、その年の12月までに亡くなりました。生きている方々も、被爆の影響で発熱や下痢など様々な症状により、その後も長い間苦しむこととなりました。また町中の景色も変わり果て生活も一変し、絶望的な状況と化しました。1つの原子爆弾が一瞬にして、人々の生命や市民生活を変貌させ現代からは想像し難い状況となってしまいました。子供だった波田さんも、働かざるを得ない状況となり、とても厳しい環境だったそうです。その当時を思い浮かべただけでも、とても胸が苦しくなり、言葉では表しきれない気持ちになりました。

今私達は、当たり前のように家族や友達と一緒に過ごし、遊んだり、ご飯を食べたり、お風呂に入ったりして、当たり前のことが当たり前のようにできています。このような生活が送れるのは、この時の辛く悲惨な経験から先人の方々が、平和というものを作り、守り抜いて下さったからこそだと思います。

次に大和ミュージアムについてです。その当時、必要最低限の者のみで極秘

に造船され、イギリスやアメリカにそれ以上の戦艦が造られないような造船技術や設備の工夫がされていました。また、日本の中で呉市に旧大日本帝国海軍の海軍工廠ができた理由などを知ることも出来ました。戦艦大和を通して、海軍の歴史や日本がどのようにして戦争に臨んだのかについてより詳しく学ぶことができました。

そして、8月6日に行われた平和記念式典です。恒久平和を願う誰もが知っているこの式典に出席させていただくことができ、とても感慨深い経験となりました。今現在ロシアとウクライナによる戦争が起きています。世界各国の方々が式典に参加し、平和宣言を行い、平和について改めて世界共通の認識を持つことで核兵器の廃絶と、世界平和の実現に向けて今後も訴え続けていく必要があります。

最後に現在被爆者の方々の平均年齢が80歳を超え、その方々が後世に伝えることが難しくなっています。このような辛く悲惨な戦争が二度と起きないように、私達にできることはとても小さなことかもしれませんが、今を生きる私達が中心となり、当たり前のあるこの平和の大切さをしっかりと伝えていく必要があると考えました。

平和な世界をめざして

青海中学校 2年2組 小泉 結生

私は広島派遣事業に参加しました。参加した理由は、社会の授業で戦争について学んで、実際に被爆された方のお話を聞いたり、戦争についてもっと深く知りたいと思ったからです。

今回の研修で印象に残ったことは、1日目の大和ミュージアムの見学です。大和ミュージアムでは、実際に戦争中に使われた「大和」という戦艦の歴史や日本のために戦った軍隊の方について、たくさん展示されていました。特に心に残ったのは、人間魚雷という人間が実際に乗って操作をする特攻兵器に乗った乗組員が亡くなる間際に家族に残したボイスメッセージです。メッセージの最後に、「行ってきます。」と言っていたのを聞き、私はその方が日本の軍隊だと誇りをもっているように聞こえました。

大切な家族や友達に会えなくなってしまうかもしれないのに、日本のために戦っている姿を想像すると、とても辛い気持ちになりました。毎日、家族や友達と過ごせている私は、とても恵まれているのだと感じました。

次に、2日目に見学した平和記念資料館と平和記念公園です。私は原爆ドームが原爆の影響で、鉄骨だけになっている姿が印象に残りました。また、体を火傷してしまった被爆者の写真やボロボロになった服など、原爆の恐ろしさを物語るような展示物がたくさんありました。原爆は爆心から3.5 km離れ

た場所でも被害があったと知り、原爆の威力の強さにも驚きました。そして今でも核兵器の後遺症に苦しめられている方がたくさんいることを知りました。

最後に被爆者の方から戦争中と戦争が終わった後の辛さを教えていただきました。波田保子さんは、小学3年生の時に集団疎開をしているときに被爆しました。波田さんのお父さんは爆心地から約1.2 kmのところでは爆し、瓦礫の下敷きになったために大怪我をして働けない体になってしまいました。波田さんはお父さんが働けなくなってしまったので、家族のために15歳の頃から朝から夜まで働いていました。

もし、戦争が行われていなければ、波田さんは家族や友達と幸せに暮らせていたと考えると、戦争は多くの人を命を奪い、助かった人の人生も大きく狂わせてしまう恐ろしいものだということを改めて感じました。派遣事業に参加して、行く前よりももっと戦争してはいけないと感じました。

今回の派遣事業を学んだ戦争の悲惨さを学校の仲間や家族に伝えて、戦争のない平和な世界を作っていきたいです。

一緒に参加して下さった生徒のみなさん、引率していただいた糸魚川市役所のみなさん、3日間ありがとうございました。

すべての人の「あたりまえ」を守ることから

青海中学校 2年2組 高津 芽依

私がこの研修に参加したいと思ったのは、小学校5年生の時に『はだしのゲン』というマンガに出会ったからです。原爆投下後、両親を亡くした子どもたちの、子どもだけで生きていく苦しみが描かれていました。ゲン達の生活は、自分の生活とかけ離れており、同じ小学生なのに、現実にあったこととは信じられませんでした。原爆が落ちた時、またはその後に、どんなことが起こったのか、研修に参加して肌で感じたいと考えました。

私がこの研修で特に印象に残ったのは、平和記念資料館で見た黒こげになった少年が抱えていたお弁当箱でした。その年、お母さんが初収穫したイモが入っていたそうです。それを抱えたまま亡くなった少年のことを知り、一瞬で日常が奪われる恐怖が急に身近なことのように感じました。

被爆者体験講話では、波田保子さんから、原爆が落ちた後、生き残った人たちがどのように苦しんできたかをお聞きしました。波田さんのお父さんは被爆後「生きるも死ぬも家族一緒がいい。」とあって、疎開していた保子さん呼び寄せ、保子さんのお母さんと3人で、広島で一緒に暮らすことにしましたが、お父さんの顔は原形を留めておらず、体もうまく動かさないため、十分働けず、生活は苦しかったそうです。死んだ人も人間のように死ねず、生きた人も人間のように生きられなかったとお聞きしました。この話を聞いて『はだしのゲン』

の世界は、現実だったと知りました。

「あたりまえ」の生活を一瞬で奪う原爆を、私は二度と、世界中の誰にも、どこの国にも使ってほしくありません。「あたりまえ」は、世界中のどんな人にとっても大切に、かけがえのない幸福だということ、誰にも奪う権利のないものだともみんなが気づけば、きっと戦争のない平和な世界になるはずです。原爆を使う必要は、無くなります。

私にできることは小さいけれど、まずは自分の「あたりまえ」を大事に生きて、周りの人の「あたりまえ」を尊重できる人間になりたいです。原爆投下から77年が経過しました。今回の研修で学んだことを、次の世代に語り継ぎ、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを風化させないよう、伝えていくことも私のできることの一つと考えています。

最後に、この研修に参加させていただき、たくさんのことを学び、とても充実した体験ができました。私たちの研修に関わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

糸魚川市平和都市宣言

糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、日本海や北アルプスの山々などの自然資源とヒスイ文化をはじめとした歴史や伝統文化を有しています。この豊かな自然と歴史の織り成す地に生活する私たちは、この郷土を大切に守り、市民のいきいきとした活動と交流がもたらす活力のある美しいまちを築き、戦争のない平和で豊かな暮らしがいつまでも続くよう願っています。

しかし、今なお世界各地では、戦争によってかけがえのない多くの命が失われています。

私たちは、唯一の核被爆国の国民として、被爆の恐ろしき、苦しみを伝えていく役割を担っています。また、次代を担う子どもたちの未来のために、平和で豊かな暮らしを伝えていかなければなりません。

糸魚川市は、市民とともに平和と安全を求める誓いを新たにし、核兵器の廃絶と戦争のない真の恒久平和を願い、ここに平和都市を宣言します。

平成19年6月28日

糸魚川市